

マイキャラ短編集

真銅一白

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

うちのマイキャラたちのすこしふしぎな日常のお話です。

目次

なほ、おんどりと入れ替わる	1
エメラルドトロッコハイスピード	3
Monster	5
ミラーインロックオン	7
クリスマスが今年もやってくる	9
ゴールドハンター・シャルドー	14
フォービドウンニアキャピタル編	
14	
生命線がのびちやった！	17
前編	
生命線がのびちやった！	19
後編	

なほ、おんどりと入れ替わる

ボンヌ・レクチュール！私はトレット。今、たくさんのお友達たちとアイカツをやってるんだ。今日はお休みだからお散歩に来たんだ！あれ？あそこにいるのはなほちゃんだ。なほちゃんはヴィーナスアークのアイドルで待になるために剣術の修行をしているかっこいいアイドルなんだ。おっ！なほちゃん！

「・・・？」

なほちゃんはキョトンとした顔をしている。すると私の足元におんどりが現れて私の足を優しくつついた。どうしたんだろう？

「トレットちゃん！」

あ、あの声はアースちゃんだ。アースちゃんもなほちゃんと同じくヴィーナスアークのアイドルで最近娘ができて母性がマシマシになつたんだ。何かあったのかな？

「実は・・・なほが・・・おんどりと頭と頭をぶつけてその衝撃で入れ替わっちゃうらしいの!!!」

アースちゃん曰くなほちゃんが走っていたら小石に躓いてその場にいたおんどりとぶつかって入れ替わってしまったらしい。どうしよう。おんどりに人間の言葉はわかんないしおんどの声帯じやなほちゃんもコケコッコしか言えない。そうだ！もう一回ぶつけてみよう！

カッちゃん!!! そうするとなほちゃんが口を開いた。

「滑稽滑稽人間!とは如何に愚かで脆弱な生命体たるかetc・・・」
しまった！頭に衝撃を受けたせいでなほちゃんinおんどの知性が覚醒して人を見下すようになっちゃったんだ！

「いつものなほじゃない!!!」

ああ・・・アースちゃんもなほちゃんの口から出ない言葉を聞いて泣いているんだ。あれ？そういえばおんどりinなほちゃんは？

「全くこんなとこにいたのか早くいくロバ」

ああああああああああああああああああああブレーメンの音楽

Monster

私はダー・クルナ。エタコレに所属しているアイドルであり、カフェ・ルナティックナイトのマスターでもあるの。実は狼人間の末裔で満月の夜には…その血が目覚めて狼になるんだけど、血が薄まってるせいか狼というよりネコのような性格になるみたい。ちよつと恥ずかしいからみんなには内緒ね。今日はそんな私の経営しているカフェ・ルナティックナイトに来たお客さんの不思議なお話になるわ。

ある日、私がいつもの通りコーヒーを淹れる準備をしているとお客さんが3人ほどやってきた。いらっしやいませ〜…ん？个性的なお客さんね。3人とも男の人で背が高く大きくて角刈りの人、シルクハットにマントを羽織ってる人、それと一番小さくて赤と青の帽子をかぶってる黄色い服の男の子という人たちだった。これって…どう考えてもあれよね？愉快で痛快な王子とその子分よね？ということとは私狼男粹なの？狼だけでも…するとシルクハットの男性は、「すみません、トマトジュースはあるございますか？」

絶対そうじゃない…ドラキュラじゃん…ト○ビアの泉の司会の人っぽいもん…とはいえお客さんなのはお客さん。幸いトマトジュースもあつたのでコーヒーカップ一杯に淹れてあげた。今度は角刈りの男性が口を開いた。

「小生はブラック砂糖なしがいいです。」

待って、普通に喋ってる???いやいやや突っ込みどころ多いんだけど?まずフランケンだろうけど喋ってるし一人称小生???あと語尾にだす???待って待って笑いを堪えないと…何とか私は頭の中にあつたつまらない話を思い出して笑いを堪えた。そして怪物くん(仮)は「カレーくれ!!!」

と言った。絶対そうだよもうこれは怪物3人組よ。とりあえずカレーとコーヒーを出した。頭の中がこんがらがってるときに3人はこう言った。

「トリックオアトリート!」

あつ！そうか！今日はハロウィンだったわ！びっくりした〜．．．まさかここまででしたっかりした仮装でお客さんが来るなんてわかんなかったもの〜。

「いや〜すみませんね。どうしても坊ちゃんが狼人間のところでこの格好をしたっていうもんだから〜にしてもフランケン、キアラ崩壊してるぞますよ。」

「あつ、フンガー！」

「もう遅いだろ！まあそういうわけなんでお菓子を貰ったら次に行こうと思うぜ。カレーおいしかったぞ！また来るよ！」

とりあえず．．．何はともあれ喜んでくれたみたいでよかった。私は3人にお菓子を渡して少し休んだ。こういうお客もたまには面白いわね。

あれ？なんであの人たち私が狼人間の末裔って知ってたの？

ミラーインロックオン

ここが・・・ミラーワールド・・・

私はアイカ♪。エタコレのアイドルの一人よ。今日は新しいアイカツが行われる世界、ミラーワールドの中に来ている。これからのアイカツはこのミラーワールドの中に転生して行うらしく、今までの見た目や声が若干変わるみたい。この世界ではドレスシアと呼ばれる生物が住んでいて、そのドレスシアと契約出来たらドレスを着てライブすることができるといいたい。だからまずは自分と会うドレスシアを探さないといけないわね。うーん・・・だけど現実世界のアイドルとしての私って何となくクールビューティってだけでやってた気がするのよね。ただそれだけだと何か足りないし・・・一緒に来たクルナに私はどういふアイドルか聞いてみようかな。クルナ、ちよつと聞きたいんだけど私ってアイドルとしてどういふイメージ・・・姿めちやくちや変わってない？髪紺色に染めてたよね？黄色に戻ってない？

「なんかこの世界だとうまく髪の色が反映されてないみたいね。声もなんか高くなってるわね。まあ、今はこれで受け入れるしかないわね。」

そういえばトレットもあの謎の塊が消えてたね。時がたてば戻るかも知れどとりあえず受け入れるしかないか。

「そうね。で、アイカ♪のイメージだっけ？そうね・・・やっぱりかっこいいアイドルってイメージはあるわね。そういえばこの間桜庭ローラさんと一緒にライブしたときのアイカ♪の格好、様になってたわ。意外とロックなんか合うんじゃないかしら？」

ロックか・・・確かにいいかも。ギター弾くのとか楽しいし。だってらそういうドレスシアが・・・いた！ギターを持っててビートを刻んでそうなドレスシア！あなた、名前は？

「私はブラッディロック。ロックに生き、ロックを愛するしかないドレスシアさ。私になんか用か？」

私はアイカ♪。私、この世界でロック系アイドルとしてライブをしたいの！だから私に力を貸してほしいの！とはいえ始めたばかりで

クリスマスが今年もやってくる

今日は楽しいクリスマス！私はみんなの願いをかなえるために今年も地上に降り立った！今年は何の願いをかなえようかな？えっ、私は誰かって？私はクリスマス。クリスマスの日だけに地上で活動できる精霊だよ。私には願いをかなえる力があって願いをかなえると来年のクリスマスまでまた地上には降りれなくなっちゃうんだ。だけど私はみんなの笑顔を見るのが大好きだからぜんぜんさみしくないよ！・・・うん！

さてと、今年も地上に降りてきたけど相変わらずモミの木がご立派に立ってるなあ。これをクリスマスツリーにするんだけど年々クリスマスツリーを作る人が減ってるんだよね。これも技術の進歩つてやつだね。あれ？なんか4人くらいの女の子が来たよ？

「よし！私が作った世界最強の斧、斧D（おのでびるさたんぶれいかー）を使ってクリスマスツリーに使うモミの木を伐採しよう！」
「さすがトレットちゃんだね！ところで、それで斬った後はどうするの？」

「その後はこの超高速トロッコを使って事務所まで運ぶよ」

「確かそれってエメラルドちゃんが乗ってそのあとヴィーナスアークをめちやくちやにしたやつよね？大丈夫なの？」

「大丈夫！今回は人知の限界くらいスピードしか出ないようにしてるしあの後なほちゃんとアースちゃんに結構怒られたからかなり慎重に作り直したよ・・・」

な、なんかすごい会話してない？

「あれ？そこに誰がいるの？」

！紺色の髪の子に気づかれた！えっえっとう私怪しいものではないですか！

「自分から怪しくないって言っちゃうんだ」

「一周回って怪しくないかもね！第一私宇宙人だし一番怪しいもん」

宇宙人!?地球の精霊と宇宙人と人間3人ってどういう状況なの!?

「かわいい子だなく私トレット！」

「私はあさがお。」

「私はダー・クルナ、よろしくね。」

「私エメラルド〜」

あつ、なんかふつうに自己紹介になってる・・・私はクリスマスよ。メリークリスマス！

「もしかして！ビルドに出ていた心火を燃やしてぶっ潰すライダー!?」

それはグリス。

「違うよトレットちゃん、パソコンを作るときに使うやつよ。」

それもグリス。

「あさがお、違うわよ。この子はキリスト教を信仰してるのよ。」

それはクリスマスチャンね。私はキリスト教じゃないわ。

「あゝこの間テレビで見たくおネエの人だゝ」

それはクリスマス松村さんね！違うわ！私はクリスマス！クリスマス限定の精霊よ！

「「クリスマスマスの精霊？」」

あつ言っちゃった。でもこの子たちと話すと楽しいな。だから私はすべてを話した。

「じゃあクリスマスチャンにお願いするとどんな願い事でも叶うんだ。」

そうよ。だからあなたたちのお願いも叶えることができるよ。あとそのイントネーションだとまたキリスト教になるよ。結構私の名前いじり気に入ってるない？

「お願い事かあ・・・私はトレットちゃんと二人きりで1日中デートしたいなあ。」

「あれ？けどお願いをしたら消えちゃうってことはあなたはどのようなの？」

次のクリスマスまではこの地上に降り立てないわ。けど私はそういう精霊だから。もう2000年以上はそうしてるもの。寂しきとかはないわ。

「そうなんだゝそしたらまた来年逢えたらいいねゝ」

それは無理よ。私が消えたら私の記憶は消えてまた来年には別の人のところに降り立つと決まってるの。公平に願いをかなえるためにね。

「えー！そんなの嫌だ！せつかくこんなにかわいい子にあったのに！だったらお願いしなけば消えなくて済むんじゃないの？」

え、えく？だけど私1日で消えるって約束だし・・・何より願いをかなえないと精霊冥利に尽きるっていうか・・・

「あつー！そういえばゆっくりしすぎじゃない？もうすぐツリーを運ばないと間に合わなくなりそう！」

間に合わなくなるって？

「そういえば言っでなかったわね。実は私たち、アイドルなの。今日はクリスマスライブを行うためにツリーになる木を探してたの。」

それでここまで来たんだ。ねえ、よかつたら私も見に行つていい？

「もちろんだよ！今日だけつてのはもったいないけど私たちのライブ見てほしいもん！行こう！クリスマスちゃん！」

私たちはトロツコに乗って事務所まで向かっていった。そして準備が完了してみんなは舞台の上に立っていた。

「みんなく!!!メリー！クリスマス!!!」

「今日は来てくれてありがとう!!!今夜は素敵なクリスマスにしようね！」

「緑のツリーに鮮やかな色くとてもきれいだね」

「今日は満月じゃないけれど月は今日も輝いている！行くわ！」

そこからの時間ははつきりと覚えている。みんなが笑顔で歌っていて・・・それを聞いてるお客さんも笑顔に・・・私が願いをかなえた時と同じような笑顔・・・私も・・・みんなに・・・!

えっ、歌いたいの?・・・もちろんいいよ!クルナちゃん、エメ

ラルドちゃん！一緒に！

「みんな今日特別ゲストだよ」

「私たちの新しいお友達、クリスマス！」

「みんな〜!!!メリー!!!クリスマス!!!急遽ステージに立たせてもらうことになりました！クリスマスです！これは私たちからみんなに笑顔のプレゼント、曲はWe Wish You a Merry Christmas！」

ありがとう。私の無茶を聞いてくれて。

「全然大丈夫だよ！会場みんなも笑顔で迎えてくれたし！」

あ、もうすぐクリスマスが終わる・・・消えちゃうんだ・・・けど私は覚えてるから・・・全然寂しく・・・ないわけじゃないよ・・・いやだ・・・みんな忘れて私だけで覚えているなんて・・・「そんなの、私だっていやだ！どうにかならないの？」

「ただどこれは・・・決まり事だし・・・あつ、最後にお願いを叶えてあげる。」

「そのお願いだけど、あなたの願いはかなえられないの？」

えっ・・・

考えたこともなかった。人の願いをかなえるのが私のお仕事だと思ってた。自分の願い・・・

「トレットちゃんとのデートはなんとか強引にでも叶えるし、クリスマスちゃんのお願いをかなえよう。」

「私もそれがいいと思うな」

私のお願い・・・だったら・・・私のお願いは・・・！

それから1日がたった。そして今日から私たちの新しいお友達が
増える！

「メリークリスマス!!!! みんなに笑顔を届けるアイドル！クリスマスです！
よろしくね！」

クリスマスちゃんのお願いは

『みんなに笑顔を届けるアイドルになってみんなとこれからも一緒に
楽しく笑っていたい！』

ゴールドハンター・シャルドー フォービドウンニア キヤピタル編

キンキラリ〜ン！わたしはシャルドー！世界中にある金をたっくさん集めるために、今日も金の情報を集めてるんだ！金つていいよね・・・キンキラで・・・きれいで・・・見るものを魅了する素晴らしいもの・・・いっぱいほしい！

ということであたしが来たのがここ！図書館！さくで、金がいっぱい取れる山の情報はないかなあ〜？う〜ん・・・天空の城、豪族の古墳、宇宙アシユラ・・・どれもわたしが既に採掘しに行ったなあ・・・本を読みながらわたしは歩いてると、今まで来たことのない本棚に来ていた。読んだことのない本がいっぱいだったので、わたしは本棚から一冊の本を取り出した。するとあたりが光りだして・・・う、うわあああああああああああああ！！！！

ここは・・・？

「あらあら、目が覚めたみたいね。」

声をした方に目を向けると青と赤の長い髪の女の子が立っていた。あ、コスモちゃんだ。確かへいこーせかい？ってところから来て宇宙の秩序と平和を守るウルトラアイドルだったはずね。けどなんでコスモちゃんがここに？

「シャルドーちゃん、あなたは禁書を開いてしまったの。その開かれた禁書の影響で、シャルドーちゃんのお願いが反映されちゃったのよ。」

「お願い？禁書？でも見たところ何も変わってないよ！？」
「日本地図を見てみて。そうしたらわかるから。」

そういわれて日本地図を開いたらな、なにこれ?!?!?!近畿地方が・・・金色になってる・・・?!?!?!なんで?!?!?!この間近畿地方は金でできてないってクルナちゃんに教えてもらったのに・・・クルナちゃんが嘘をつい

てた・・・つてコト？

「違うわよ。近畿は金でできてないのは本当。これは禁書を開いてきたいわばパラレルワールドね。要は私たちは元の世界とは別の世界にいるってことよ。」

そ、それじゃあ私たちは帰れないの・・・？あれ？でもコスモちゃんはどうやってこっちに來たの？

「あら、問題なく帰れるわよ。この世界に來るのは意外と簡単だったわ。」

え？そうなの？

「ええ。この世界の日本海を泳いで、右へ200歩、下へ256歩、左へ63歩進んでそこで探検セットを使えばいいのよ。」

歩数さえ間違えなければ確実に帰れるじゃん!!!よかつたくじやあすぐ帰ろう・・・待つて？ここで取った金つて持つて帰れるの？

「ええ問題ないわよ。そういうと思って近畿に行く新幹線の準備はできてるわ。」

やったあ!!!いっぱい金がとれるゴールドラッシュチャンスだわ!できる限り持つて帰るわ!

そして私たちは近畿へとたどり着いた。いやあすげえですわこんなに金だらけなんて最高ですわね!!!できることならここで暮らしたい・・・

「すごいよだれに口調よ・・・？でもここは異世界だからエタコレのみんなはいないし、それに仮にも禁書で作られた世界だから崩壊する可能性もなくはないわよ。」

そ、そうだね・・・みんながいないのは嫌だし崩壊しちやったら帰れないもんね。わたしはよだれを拭いて金を取った。近畿大学1棟分の金ぐらいなら持つて帰れるかな？

「うくん、だったら強力ソルバーになるしかないわね。いくわね!」

そう、コスモちゃんは3つの姿がある。今まで話していたのが『慈愛のナイトムーン』という優しさの姿。そして今からなるのが・・・

「よし!!!近畿大学丸ごと持つて帰るぞ!!!おら!!!」

太陽のように熱く力に最も長けている『強力のソルバーン』という姿。あと1つ、その2つの力を合わせた『愛と強さのクロスターニス』という姿もあるんだけど・・・まあ今日はコスモちゃんの話じゃないからまた今度ね。とにかく、コスモちゃんと協力して近畿大学を解体してカバンに詰め込んだ。

ほどなくして私たちは元の世界に戻ってきた。たつたつつくさんの金が採れたので今日はよかったなあと夕焼けを見ながら思った・・・

「ちゃん・・・シャ・・・ちゃん・・・シャルドーちゃん・・・！」

コスモちゃん・・・？う、うくん・・・夢・・・？えつな・・・なにぃー！！！！わたし????の持っていた金は!?

「あく禁書による夢を見てたのね。シャルドーちゃんの開いた禁書は開いたものの夢の幻を見せて生命力を吸い取るヤバイ本なのよ。」

えっ、そんなにヤバイ本だったの・・・？わたし・・・危なかったじゃん・・・

禁書は私が目覚めた後に焼かれることとなった。危なくわたしは死んじゃうところだったんだ・・・そう思いながら私は家に帰った。そしたらポケットに違和感があったので手を入れたら・・・き・・・近畿大学の金のエンブレム・・・！どうやら一部の夢は現実になったみたい。もしかしたら近畿にも金が残ってるかも・・・？そう思ったのでわたしは明日、近畿に行くことにした。

生命線がのびちやった！ 前編

「大変！生命線がのびちやったくー！」

この聞き覚えのあるかわいい声は、トレットちゃん。生命線が伸びたつてどういうことかしら？それに、生命線が伸びるのはいいことじゃ・・・とはいえトレットちゃんはデータ体だから不死身なんだけどね。でも、私はトレットちゃんの手を見て驚いた。

「な、なにその長い生命線!？」

その生命線は、手からはみ出て軽く10mを超えるような線だった。どうしてこんなことになったの・・・？

「どうやら私の身体、バグっちゃったみたい。朝から体重が異様に軽しいそのリソースが全部生命線にいつてるみたいなの！どうしようあさちゃん・・・」

そういえばトレットちゃん、以前にもバグを起こして「きゅうり」しか喋れなくなった時があったわね。その時ちようど愛暗子の部屋の収録だったけど私たちでどうにか切り抜けたんだったわね。とりあえず・・・

「ライナちゃんのところに行こう。」

ライナちゃんはすべての医師免許を一発で取った最強の医者にしてアイドル。だけどバグは病気なのかしら・・・？

「うくん・・・さすがに私でもバグは専門外ね・・・」

やっぱり駄目だった。そりやそうだよね。インターネットが壊れたんです！つて言いながら救急病棟に駆け込むようなものだよね。

「一応応急処置としては生命線を切ることでぐらいいだけど・・・」

「えっ、そんなことできるの?」

「データ体とはいえ物理的な肉体なら手術することはできるわ。生命線も肉体ではあるから切ることは可能だわ。」

やっぱりライナちゃんはすごい医者だ。と思っていいたら

「それはダメよ!!!」

この声は・・・ミチちゃん!?ミチちゃんは地面から忍者のごとく現れた。

「ミチちゃん、いつからそこにいたの!？」

トレットちゃんがそう言う。当然の疑問だけどミチちゃんはそれには答えず私たちに言った。

「実は私は今日の未来を見たの。その未来は、トレットさんの生命線を斬ったら生命線に宿った生命のパワーが溢れ出してビッグバンが起ころうというものだったのよ！」

嘘!?と思ったけどそうだった・・・ミチちゃんは左目で未来を見ることができ、10、20、30日は未来を確定させ、6のつく日は最悪の未来、ミチちゃんの誕生日の5月5日は最高の未来、それ以外は五分五分で当たる未来が見えるんだったわ。そして今日は・・・8月26日!

「や、やばいじゃん・・・このバグ治るまで生命線を維持しないとけないの・・・?」

私にもわかった。トレットちゃんの顔が青ざめるのを。かわいい・・・いやそんな場合じゃない。どうにかしてバグを直さないと・・・

生命線がのびちやった！ 後編

バグを直すと言ってもどうすれば・・・エタコレのみんなの中にはコンピューターに詳しい子はいない・・・そもそもデータ生命体にそういった常識が通用するかわからないし・・・

「とりあえず・・・どうにか押し込んでみる？」

ライナちゃんがそう言った。確かにトレットちゃん曰く生命線にリソースが言ってるらしいからそれを体の方に押し戻せば何とかなりそうだけど・・・

「それね、私も試したんだけどどうにも戻らなさそうだし・・・しかもその時になんかパキツみたいな音が鳴った気がするんだよね・・・？」
パキツ・・・？え、もしかして生命線に亀裂が入っちゃったってこと・・・？

パチパチパチパチ

そういえばさつきから知育菓子のはじけるキャンディーみたいな音がするなつて思ったけど・・・命のはじける音だったってこと？？？「な、なんか心なしかぐつたりしてきた・・・ちよつと横になるね・・・！！！！」
言われてみればおかしかった。いつも元気で笑顔のかわいいかわいトレットちゃんが生命線が伸びてそれが斬れたらビッグバンごときで青ざめるわけなんてなかった。違ったんだ・・・！トレットちゃん？の命は今も少しづつ漏れている！

「どうりで私普段より耳が聞こえるし力があるなと思ったわ。トレットさんの漏らしてる命が私に力を与えていたんだわ・・・」

だから地面から出てきたんだ・・・でもどうしよう！このままじゃトレットちゃんが死んじゃう！いやそれだけじゃない。もし亀裂が広がって生命線が真つ二つになったら、命が溢れてビッグバン・・・！トレットちゃんと世界が終わっちゃう！

「死ぬ・・・そうだわ！トレットちゃんには一度死んでもらいましょう！」

いきなり何を言い出すのライナちゃん!?その場にいた私たちは驚いた。でもライナちゃんがこう続ける。

な役回りなんだ・・・」

相当精神的に逼迫していた。ライナちゃんが病院へなほちゃんを運び、私たちは家に帰ろうとした。すると突然

「えっ・・・今未来が見えたわ・・・遠くない日にトレットさんが脱線事故を起こすわ・・・！」

なぜかミチちゃんの未来視が発動した。もしかすると漏れ命の影響で未来をもう一回見ることができたのかも？ただ脱線事故って・・・？とにかく今日は疲れたので解散した。

後日・・・

「大変！感情線が伸びて、環状線になっちゃった〜！」

なほちゃん・・・ごめんね・・・